管理栄養士課程における DOHaD説の理解度に関する研究（続報）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 日本DOHaD研究会 公開日: 2019-01-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小山田, 正人, 菊池, 百華, Lim, Anecita, Dixon, Robyn, Wall, Clare, Bay, Jacquie メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003482

DOHaD 研究（ISSN 2187-2597）
2018 年 第 7 巻 第 1 号　58 頁

管理栄養士課程における DOHaD 説の理解度に関する研究（続報）
Understanding of DOHaD concepts in students during undergraduate registered dietitian course (continued report)

小山田正人 [1], 菊池百華 [1], Anecita Lim[2], Robyn Dixon[2], Clare Wall[3], Jacquie Bay[4]
Masahito Oyamada[1], Momoka Kikuchi[1], Anecita Lim[2], Robyn Dixon[2], Clare Wall[3], Jacquie Bay[4]
1. 藤女子大学 人間生活学部 食物栄養学科, Department of Food Science and Human Nutrition, Fuji Women's University, 2. School of Nursing, University of Auckland, 3. University of Auckland, 4. Liggins Institute, University of Auckland

【背景・目的】
われわれは、医療職の教育過程での DOHaD 説の理解度の変化を明らかにする目的で、2015 年より管理栄養士課程の学生を対象に質問票調査を行っている。本学会では、2015～17 年度に加え、自由回答式質問を追加した 2018 年度の結果も発表する。
【対象・方法】
調査対象は、管理栄養士課程の女子大学生で、4 学年それぞれ約 80 名。質問票は、2015 年度より使用しているが、2018 年度はより正確に評価するため、自由回答式質問「生活習慣病の発症リスクを高める妊娠中の女性の栄養状態とは、どのようなものか」と、「そのような栄養状態が、生活習慣病の発症にどのような仕組みで関わると考えるか」を追加した。
【結果】
2015～17 年度は、各学年 56～88 名の学生から回答が得られ、回答率は 71～95%だった。「妊娠中の女性の栄養は、子供の成人期全体にわたる健康に影響を及ぼし生活習慣病の発症に関わる」に対して、「賛成」の割合は、3 ヵ年でそれぞれ、1 年生で 29%、38%、34%、2 年生で 42%、61%、57%、3 年生で 71%、56%、68%、4 年生で 54%、69%、56%だった。また、「子供の 2 歳までの栄養は、成人期全体にわたる健康に影響を及ぼし生活習慣病の発症に関わる」への回答も同様の結果だった。
【結論】
3 年生までは学年進行とともに DOHaD 説の理解度が増加したが、3～4 年生では必ずしも増加は見られなかった。学会では本年度の自由回答式質問の結果も発表する。

参考：Oyamada et al. JDOHaD (2018) dx.doi.org/10.1017/S2040174418000338